

2020 年 7 月 9 日

通貨ニュース

マレーシア:7 月金融政策会合～政策金利は史上最低を更新

マレーシア中銀(BNM)は7日の金融政策委員会(MPC)で、翌日物政策金利を25bp引き下げて1.75%にすることを決定した。同時に上限金利と下限金利もそれぞれ2.00%と1.50%に引き下げられた。事前のブルームバーグの予想では25人中14人が25bpの利下げを予想していた。BNMは4会合連続での利下げを決定し、政策金利はリーマンショック後の2010年以来、史上最低を更新した(図表1)。

BNMは、新型コロナウイルス対策のロックダウンの影響で4～6月期の国内経済活動が大幅に縮小したとの見解を示した。今回の更なる政策金利引き下げは、景気回復のペースに勢いをつけるための追加の刺激策であるとした。

6月発表の世界銀行の世界経済見通しによれば、20年の年間の成長率は前年比▲3.1%と予想される一方で、21年度は同+6.9%とV字回復を見込む予測となっている。しかし、世界では新型コロナウイルスの感染拡大と第二波の到来が懸念されている地域があり、世界経済の回復ペースが遅れる可能性が浮上している。BNMもその点に言及しており、21年の経済見通しが今後下方修正される場合も考慮しておく必要もあるだろう。

また、物価動向が軟調に推移している点も今回のBNMの追加利下げの材料となった。前回5月会合後に発表された4月、5月CPIは共に前年比▲2.9%となっており、ロックダウンによって経済活動を制限したことによる需要の減速を色濃く反映した内容となった(図表2)。今年のCPIの上昇率は相次ぐ下方修正を経て、前年比▲1.5%～+0.5%の推移を見込んでいたが、今回、具体的な数値は明記されなかったものの、年間でのCPI上昇率がマイナスに転じる見通しが声明文内で示された。

なお、BNMは今後もインフレ動向と国内景気の全体的な見通しの推移及び利下げの効果を引き続き点検し、持続的な経済回復を可能とするため金融政策を活用していくと述べており、更なる金融緩和の可能性を示唆した。

MYRの動向については、世界経済の正常化ペースに影響を受けそうだ。直近のMYR動向は原油価格との高い相関性が見られる(図表3)。世界景気が底を打ち、回復に向かうに連れて原油価格が戻れば、MYRの堅調推移に寄与していくものと考えられる。

他方、米中関係を中心とした市場のリスクセンチメントや対内投資ネットフローの状況にも注意を払いたい。1～3月期には、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で市場にリスクオフの動きが強まった結果、マレーシアから資本流出が加速してMYRも下落した経緯がある(図表3、4)。現在はその動きが一服しつつあるが、再度市場のリスクセンチメントが悪化に向かう局面となった場合はMYR安方向に動く可能性を警戒したい。

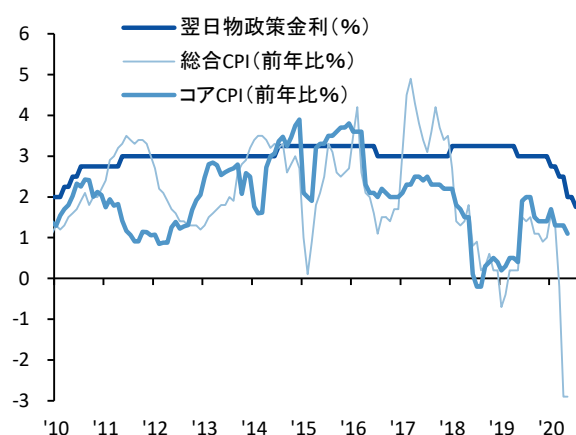
市場営業部

堀 堯大

03-3242-7065

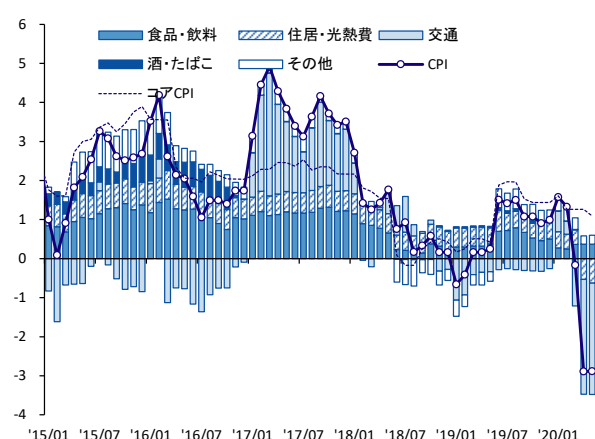
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

図表 1:政策金利と消費者物価指数(%)



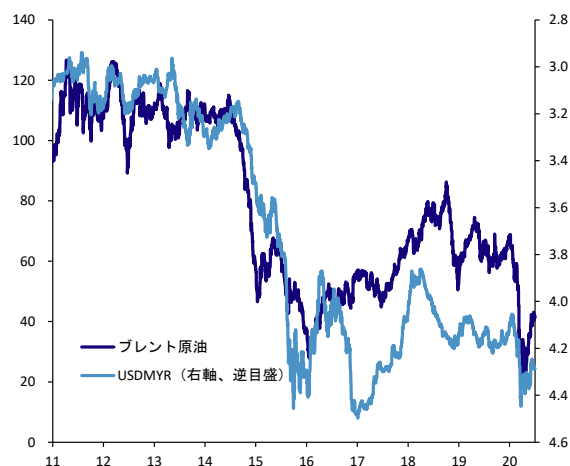
出所:マレーシア中央銀行、マレーシア統計局、CEIC、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2:消費者物価上昇率の内訳(前年比%)



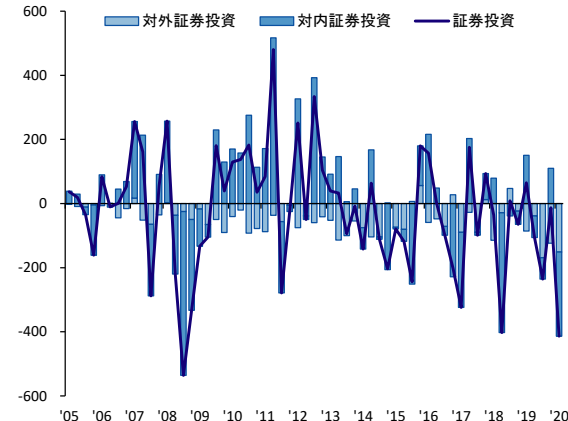
出所:マレーシア統計局、CEIC、みずほ銀行

図表 3:原油価格とリンギ相場



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 4:マレーシア証券投資の動向(単位:百万リンギ)



出所:マレーシア中央銀行、マレーシア統計局、CEIC、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。